

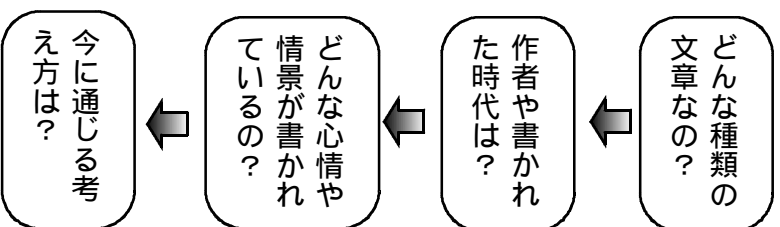
手引き

古文を味わう

一 古文を読むときには…

古文を読むことによって、千年以上も昔の人々の生活の様子や考え方などを知ることができます。現代にも通じるものもたくさんあり、感動や共感を与えてくれます。また、現代とは違うものの見方を教えてくれることもあります。いろいろな種類の古文の文章を読み味わって、新しい発見をしましょう。

理解の道すじ



二 読解の手順は…

1 声に出して、繰り返し読む

- ・ 声に出して読んで、古文のリズムや特徴を感じ取りましょう。
- ・ 声を出して繰り返し読むことで、歴史的仮名づかいを現代仮名づかいに直すこともできるようになります。

2 あらすじをとらえる

- ・ 主語をとらえる
- ・ 「だれが」「何が」「どうなのか」を読み取りましょう。
- ・ 主語は省略されることも多いので注意しましょう。

会話をとらえる

- ・ 「」が省略されている場合が多いので、会話の終わりを見付けましょう。
- ・ 「と」「とぞ」「とて」という言葉が会話の終わりの目印になります。
- ・ 会話の始まりは、「いはく」「いひけるには」「いふよ」などが目印になります。

3 主題をとらえる

- ・ 「いつ・どこで・だれが・どうした」を正確につかむ
- ・ 時、場面、人物は冒頭で紹介される場合が多いので、見落とさないようにしましょう。
- ・ 助詞の省略に注意しましょう。
- ・ 繰り返される語句に注意する
- ・ 作者が強調したい主張や感想が込められているのでそこに着目しましょう。
- ・ 冒頭や結末部分に注目する
- ・ 随筆では、冒頭や最後の方に筆者の主張や感想が書かれていることが多いので、そこに着目すると分かりやすいでしょう。

【三大随筆の比較】

作品名	作者	成立年代	内容	文体
枕草子 <small>まくらのせつし</small>	清少納言 <small>せいしょうなごん</small>	平安時代中期	宮廷生活での体験、感想を理知的な文章でつづっている。	簡潔で歯切れのよい文章、和文
方丈記 <small>ほうじょうき</small>	鴨長明 <small>かもちやうめい</small>	鎌倉時代前期	世の中の混乱と人生にはかなさを描いている。	対句を多用した、流れるような和漢混ことう文
徒然草 <small>つれづれぐさ</small>	吉田兼好(兼好法師) <small>けんこうほうし</small>	鎌倉時代末期	無常の世の生き方、人間のあり方を述べている。	伝統的な和文と和漢混ことう文